

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-3 農林水産業の担い手の確保・育成
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	農業制度資金融資事業		
目的	(1) 対象	認定農業者等	
	(2) 意図	規模拡大や多角化、集約化、生産性の向上など、農業経営の高度化ができるようにする。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・利子補給や原資預託により、低利・無利子での農業制度資金の利用環境を整備する。 ・農業信用基金協会への出えん・損失補償により、無担保・無保証人で農業制度資金が利用できる環境を整備する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		110	110	110	110	
		融資額/直近3か年の平均融資額×100	実績値	97.4	101.4	104.8	129.0		%
			達成率		92.2	95.3	117.3		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	190,290	1,213,883
うち一般財源 (千円)	57,785	38,393

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- ・近年の生産コストの上昇、消費税増税やTPP交渉への対応で農業経営を取り巻く環境は不透明さを増しており、運転資金需要の増加が依然として続いている。
- ・平成26年度は米価の大幅な下落によりさらに経営環境は悪化し、資金需要が大きく増加した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・短期運転資金については、予算額の増加により需要増に対応した。
- ・既存貸付金の返済条件緩和の要請が増加しており、対応を行った。
- ・米価下落については緊急対策資金を創設して対応し、約1億円の新規融資を行った。
- ・これらを通じて、認定農業者の規模拡大や新規就農のみならず、既存貸付先の農業者の資金繰りの安定に大きく寄与した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・短期運転資金や一部の無利子枠の資金については依然として需要が高く、融資枠が不足している。
- ・既存貸付金の返済条件緩和の要請は今後も拡大が見込まれる。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・農業者からの需要の高い有利な資金は、国の予算枠による制約があり、融資枠の拡大は困難。
- ・経営環境が好転しないことに加え米価の下落も重なり、農業者の資金繰りは依然として厳しい状況が続いている。

③原因を解消するための「課題」

- ・農業者の資金ニーズの把握に努め、国への予算要望や他資金への誘導を行うことが必要。
- ・個々の農業者の経営状況や資金繰りの早期把握に努め、個別の返済条件緩和対応（借り換え等を含む）を行うことが必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・基本的には融資機関と関係機関が連携して情報共有を進め、適切な資金への誘導や、返済条件緩和への対応を行う。
- ・そのためには関係機関の連絡調整を密にすることが不可欠であり、引き続き担当者会議の開催や各種情報交換の場の設定に努める。
- ・国予算に係る融資枠の拡大については、予算要望を継続する。
- ・返済条件の緩和については引き続き柔軟に対応するほか、大きな経済変動や災害の際は、早期の情報収集により引き続き緊急対策資金等での対応を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）